



2012 年度アクションポート横浜 事業報告書

2012/4/1-2013/3/31

NPO 法人アクションポート横浜

1. 市民や組織の連携により、新たな事業やシステムを創造するためのプロジェクト

■横浜サンタプロジェクトの実施

企業・NPO と連携して実行委員会を結成し、横浜に笑顔をプレゼントするというテーマで、5つのサンタが様々な活動を行った。企業に働きかけ車や物品の提供をお願いし、活動に参加しやすい土壌をつくることができた。

日時：2012年12月15日（土）12：00～16：00 実施
参加者（サンタ）：420名
対象者：500名 ＊訪問先の子供たちなどの人数



- ・訪問サンタ：横浜市内の6施設にオープンカー、黄色の安全パトロールカーでサンタが訪問。
- ・広場サンタ：パシフィコ横浜円形広場にて、参加型ステージパフォーマンスやブース企画を実施。
- ・ドライブサンタ：子どもたちを対象にオープンカーのミニドライブ体験を実施。
- ・清掃サンタ：横浜にキレイをプレゼント！サンタになって清掃活動を実施。
- ・その他：
 - ・横浜市長よりメッセージが届き、開会式にて代読。
 - ・みなとみらい21助成金を受託

主催：サンタが街にやってきました！2012実行委員会

有限責任 あずさ監査法人、株式会社イベント・コミュニケーションズ、
SMB Cコンシューマーファイナンス株式会社、NTTソフトウェア株式会社、株式会社大川印刷、
大塚製薬株式会社、神奈川県印刷工業組合、首都高速道路株式会社、
首都高トールサービス神奈川株式会社、株式会社野毛印刷社、株式会社フェアスタート、
富士ゼロックスアドバンステクノロジー株式会社、ブリリア ショートショート シアター、
マツダ株式会社、横浜FC、横浜市社会福祉協議会、NPO 法人横浜市民アクト、
横浜中華街パーキング協同組合、NPO 法人アクションポート横浜

●協力企業・団体

リコージャパン株式会社、横浜・八景島シーパラダイス、本町小学校放課後キッズクラブ、横浜市西区役所、中越パルプ工業株式会社、ヨコハマ・グッズ 001（ゼロゼロワン）会員企業、石井造園株式会社、コーエーテクモホールディングス株式会社、ヒラノ商事株式会社、横濱キャンドルカフェサポーターズクラブ、株式会社 KENJI STUDIO、富士ゼロックス神奈川株式会社、花と緑の研究所、コールド・ストーン・クリマリー・ジャパン株式会社、KTC中央高等学院 横浜キャンパス、マメポニ、有限会社スूप、相模鉄道株式会社、相鉄バス株式会社、相鉄企業株式会社、横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ、横浜信用金庫、千代田化工建設、株式会社八雲堂、株式会社目標管理トレーニング、城南信用金庫 横浜支店、株式会社バゲージハンダーズ、放送ライブラリー、野中貿易株式会社、ロードスタークラブ・オブ・ジャパン、マツダデミオオーナー有志、メットライフアリコ生命保険株式会社、謝甜記

●特別協賛

株式会社野毛印刷社、横浜中華街パーキング協同組合、横浜信用金庫



【成果と次年度に向けて】

- サンタプロジェクトでは、積極的な企業の関わりにより、企画の数や参加方法等を増やすことができ多くの方に関わってもらうことができた。また、プレゼントの協賛という形での幅広い企業との連携ができた。
- 天候に恵まれず、あいにくの天候ではあったが、400名を超えるメンバーに参加してもらい、雨の中でも参加者に楽しんでもらえるイベントにすることができた。また、実行委員会内の結束もより高まった。
- 広場サンタでは一部参加費等で資金獲得ができたものの、活動場費の確保が引き続き課題となった。次年度は早めから協賛集めなどを行い、自立したイベントになっていくように努力したい。

■NPO と企業のマッチングを図るための現場ツアーの開催

NPO 法人横浜スタンダード推進協議会と連携し、横浜型地域貢献企業等の職員に NPO での現場体験をしてもらい、NPO や社会貢献活動についてより理解を深めてもらう機会を作った。

○「横浜型地域貢献企業交流会—NPO 現場体験ツアー」

(大人のインターンシップ事業として NPO 法人横浜スタンダード推進協議会共催)

日時：2012 年 9 月 12 日（水）13：00—17：00

内容：

現場体験） A コース：鶴見川にて清掃活動及び魚取り体験

B コース：寿町にて街歩き及び体験活動

振り返り）ワールドカフェにて活動の振り返りを実施

参加者：40 名



■みなとみらいサロン

企業の社会貢献活動について考える交流会として 2 回ほど実施をした。

(横浜市ボランティアセンターと共催)

テーマ：企業ネットワークで街を面白くする

日時：2012 年 9 月 25 日（火） 15：00—18：00

事例報告

「事例 1：500 人のサンタでパシフィコが埋まる！・・・横浜サンタプロジェクト」

「事例 2：早めの点灯で夕方の事故を減らす・・・おもいやりライト運動」

「事例 3：循環型社会を目指して、街を盛り上げる・・・伊那テクノバレーリサイクルシステム研究会」

テーマ：子どもと一緒に成長しよう！

日時：2012 年 11 月 27 日（火）15：00—18：00

事例報告

事例 1：SMB C コンシューマーファイナンス株式会社

事例 2：リスト株式会社

事例 3：三ツ境交通有限会社

■横浜型コミュニティサイクル「baybike」への運営協力

昨年度から引き続いて、横浜市・株式会社 NTT ドコモが運営主体として実施している「横浜都心部コミュニティサイクル社会実験」へ参加した。社会実験の運営主体である(株)NTT ドコモと契約し、自転車の点検や管理、マネー啓発などを行うクルー（スタッフ）の配置などの運営協力を行った。



○baybike の運営

クルーを配置し、以下の業務を実施した。

期間：2012 年 4 月 1 日～2013 年 3 月 31 日 7:00-22:00

実施体制：クルーリーダー1 名、クルー3 名を常時配置（ローテーション勤務）

活動内容：

ルーティン作業：自転車点検、清掃、ポート状況の確認作業など

自転車の再配置：ユーザーの利用により、各ポートにおいて台数が偏った際の自転車再配置

バッテリー交換：ソーラー発電による給電を行うポートのバッテリーの交換

お客様対応：ベイバイク利用時に現地で貸出トラブルに見舞われたユーザーへの対応

ご利用に関する詳しい案内対応

リーダー業務：クルーへのルーティン業務・自転車の再配置の指示、及びユーザーへの電話対応

台数運用トライアルの実施：利用台数の増加に伴った運用のスリム化を図り、試験的に従来の自転車再配置方法を見直す試みを実施した。

○クルーの配置

baybike の運営を行うクルーリーダー及びクルーを配置した。また、クルーの募集については学生やシニアに加えて、株式会社 K2 インターナショナルジャパン、横浜パーソナル・サポート・サービスと連携して、様々な特徴や属性をもつ人たちの雇用も積極的に行い、社会的雇用の場づくりとした。

クルーリーダー：11 名 クルー：43 名 述べ活動人数：4171 名

○イベントへの参加協力の実施

・横浜カーフリーデー2012&モビリティウィーク：2012 年 9 月 22 日

内容：クルーによる、出展ブースにて登録案内の補助、ご利用案内。 参加者：2 名

・横浜エコライド 2012：2012 年 11 月 11 日

内容：クルーによる、出展ブースにて登録案内の補助、ご利用案内。 参加者：2 名

・キッズサイクルスクール：2012 年 5 月 27 日、6 月 9 日、6 月 23 日、7 月 28 日、8 月 4 日、8 月 25 日、9 月 8 日、9 月 22 日、10 月 13 日、10 月 27 日

内容：湘南ベルマーレのプロの自転車チームを講師に迎え、3 歳以上の子どもたちに向けて、基本的な交通ルールの指導と、自転車に乗れるようになるためのスクールを実施。クルーは練習中の子どものサポートや受付補助を担当。

参加者：各回 4 名～5 名のクルーが参加

○自主企画の実施：

・クルーマニュアルの作成

1 年間で築いた運営実績をもとに、クルーの日常業務についてまとめた運営マニュアルの冊子を作製。

・交通ルール検討会の実施：

道路交通法に基づいた自転車乗車ルールの啓発として、現地での試験的体験も交えて、クルー内でベイバイクにおける交通ルールの検討と共有を行った。

・WEB ブログ発信：

ベイバイクを通してクルーが発見した街の魅力を発信する WEB ブログを公開し、各月のテーマに合わせて取材と記事の作成を行った。

・ベイバイク総会の実施：2012 年 3 月 21 日

ドコモ、アクションポート横浜より 1 年間の運営実施報告を実施。また、これまで 2 年間の成果と課題を振り返るワークショップを実施。

参加者：30 名

○外部での活動発表

・地球温暖化対策推進委員会：6 月 7 日

横浜市地球温暖化対策推進協議会が主催する、「平成 24 年度横浜市地球温暖化対策推進協議会通常総会 & 省エネ・節電取組事例報告会」にて、ドコモ、アクションポート横浜による、ベイバイクの取り組みについて発表。

・マイプロジェクト工房：10 月 10 日

mass×mass 関内主催の「マイ☆プロジェクト工房」にて、ドコモ、アクションポート横浜による、ベイバイクの取り組みについて発表。また、グループワークを行い参加者とベイバイクの課題と活用法について意見交換を行った。

【成果と次年度に向けて】

□多世代で多様な背景をもったメンバーが集まり、他では持てない関係を築くことでそれぞれが成長し、雰囲気
のよい居場所づくりができた。

□それぞれのクルーが責任を持ちながら仕事を楽しんでできた。

□ベイバイクを通じて、改めて街の面白いところを発見でき、地域をより身近に感じる事ができた。

■関係者が多く組織間の役割区分がなく、連絡体制が複雑で意思決定経路も曖昧であったため、組織間のコミュニケーションが困難であった。

2. 市民や市民活動団体の地域の課題解決や、そのための組織運営を支援するプロジェクト

■ヨコハマ市民まち普請事業（横浜市都市整備局との協働事業）

（1）ヨコハマ市民まち普請事業（横浜市都市整備局、市民セクターよこはまとの 3 者協働事業）

市民が主体となった身近なまちのハード整備に関する提案を募集し、2 段階の公開コンテストで選考された提案に対して、最高 500 万円の整備助成金を交付するなど、市民のまちづくり活動への支援を行う事業。横浜市、NPO 市民セクターよこはま、との 3 者協働事業。アクションポート横浜が担当し実施した事業は以下の通り。

○整備成果報告会・活動懇談会の企画運営

日時：平成 24 年 10 月 14 日（日）

午前 9 時半～午後 5 時

○広報製作物の企画・制作

・「整備成果報告会の募集チラシ」

・「提案募集のチラシ」

・「提案募集のポスター」

○「H22 年度整備・事例集の製作」

・事例集 Vol.6 平成 22 年度選考・平成 23 年度整備完了の事例の取材を行いまとめた。

○部会運営の補助

・横浜市地域まちづくり推進委員会ヨコハマ市民まち普請事業部会の運営補助（資料作成・議事録作成等）



○まち普請現場体感バスツアー

- ・一般市民向けにこれまでの整備事例をバスで回り見学するツアーを企画実施した。

平成 25 年 2 月 16 日（土） 午前 9：30～午後 4：30

見学コース

- 1 本牧山頂公園（中区）
- 2 西柴団地商店街さくら茶屋にししば（金沢区）
- 3 初黄・日ノ出町地区階段広場（中区）
- 4 都筑民家園（都筑区）

【成果と次年度に向けて】

□まち普請事業は、市民主体によるまちづくり支援制度の全国的にも先駆的な事業である。事業の目的、助成を受けた団体の整備や地域との関係作りなど、市民主体のまちづくりの広がりという、事業の目的や方向性がしっかりしており、市民に浸透してきている。

□横浜市との協働の関係は良好であり、各々の特徴を活かした形で事業が進めることが出来た。

□今年度から、まち普請事業を活用して整備を終了した団体間の交流・ネットワーク化を試み今後も継続していく予定である。

■応募者は減少傾向にある。事業に参加した市民や専門家などからの評価は高いものの、広く市民へ制度が浸透しておらず活用されていない。潜在的な需要はあろうと思われるので、この制度を活用する市民の発掘が必要である。

■事業の進行管理だけでなく、実際の市民の提案活動における支援などもう少しアクションポートの組織の特徴を活かした形の支援や活動の展開を検討したい。

3. 市民活動や地域の課題解決に関する相談、コーディネート

市民活動や地域の課題解決に関する相談に対応し、随時助言や紹介を行った。

特に企業、若者（大学生・若手社会人）などからの相談が多く、NPO とのマッチング、紹介などを行った。

4. 市民活動や地域の課題解決に関する情報提供と問題提起

■ホームページの運営

アクションポート横浜のホームページ（<http://actionport-yokohama.org/>）の運営と内容の充実を図った。

■メールマガジンの発行

APY 通信を毎月 1 回発行し、会員向けに情報発信と活動報告を行った。

■会員相互のコミュニケーション手法の検討

会員相互のコミュニケーション手法として、メーリングリストを活用し、アクションポートの事業への参加の呼びかけ、アクションポートに寄せられる情報の発信を行う他、会員が参加する活動の情報等が寄せられた。

■リーフレットの作成

アクションポート横浜の活動内容を紹介するリーフレットを作成した。

5. 市民活動や地域の課題解決に関する政策提案

■協働の新たなステージへの環境創出事業への参加（新しい公共事業）

昨年に引き続き、神奈川県内の中間支援組織、子育て支援拠点、文化や環境等多分野のNPOと連携し、協働の課題を議論する「協働の新たなステージへの環境創出事業」に参加した。相談窓口やヒアリングで神奈川県内の協働についての課題を洗い出し、それについて知恵を集める「ケース会議」、専門家を交えて、広く議論する研修会を重ね、2013年2月28日にはまとめとなるシンポジウム「NPOがNPOであるために」を開催し、多数の参加者を得た。

協働をめぐる環境は激変しており、課題も多様であり、地域によっても状況は変わるが、「協働」については共通の課題が多いことが明らかになった。それらをケース会議で議論したが、法律的な課題など、専門家の力を借りることで解決できるものもあったが、評価や選考基準など今後とも検討が必要な課題もあり、本事業で「協働」の課題すべてが解決できたわけではない。



しかし、これまでは子育て支援分野を中心のネットワークだったのが、県下の中間支援組織や多分野とのネットワークが生まれたことで、情報交換を常時できるような環境をつくることのできるようになった。検討のプロセスの中で、情報を得ることで解決の糸口を見出すことができることもわかった。その点では、県下に「協働」を切り口にした多分野のネットワークが生まれたのは、大きな意味がある。

また、ケース会議やシンポジウムで具体的な議論ができ、「市民活動の正当性」「中間支援組織のあり方」など、今後につながるキーワード的な論点を浮かび上がらせることもできた。これも成果と言える。

もう一つ、非常に重要なこととして、本事業の中に突然降って湧いた「横浜市市民協働条例」問題がある。全国的に横浜の名前を轟かせた議員提案条例であるが、本事業の協議体が中心になって、条例案の修正に動いた。行政との協働だけでなく、政治との関係も検討しなければならないことに改めて気付かされたが、単なる調査研究に留まらず、現実的な施策形成の上で、市民の意見を取りまとめ、条例に自分たちの意見を反映させるべく動くことができたことは重要である。

[次年度に向けて]

新しい公共事業としては終了したが、今後もNPOと行政の連携は深まることが予想される。また企業とNPOあるいはNPO同士の「協働」も今後は大きな課題となると想像できる。そこで、新しい協働を考える会としては、継続してこの問題に取り組んでいく。まだ、詳細は決まっていないが、アクションポート横浜としても、メンバーのひとりとして関わっていきたい。

■NPOに関わる法制度についての政策提案

NPO/NGOに関する税・法人制度改革連絡会、かながわNPO研究会、NPO政策いちば運営団体会に加盟し、NPO支援税制の動向やNPO政策いちばプレイベントなどを、ホームページや会員メーリングリストでの発信した。

6. 市民活動や地域の課題解決に関する人材の発掘と育成

■NPO インターンシップ（学生の NPO 活動体験の実施）

市内の大学と協力し、学生が一定期間 NPO でインターンとして活動するシステムを運営した。

2012 年度からは、夏休みを中心とする 10 日間活動する

「短期インターンシップ」と 6 ヶ月間活動する「長期インターンシップ」の 2 種類のインターンを実施した。

	参加者数	受入団体
短期インターンシップ	30 名	4 団体
長期インターンシップ	5 名	21 団体

◆参加大学

横浜国立大学（地域課題実習「市民活動を体験して考える協働型まちづくりプロジェクトⅢ」）、横浜市立大学（まちづくり体験実習 b）、神奈川大学（実社会体験研究・インターンシップ準備演習） 関東学院大学（インターンシップ・インターンシップ A, B・ソーシャルサービス学外実習 A, B）フェリス学院大学（ボランティア活動 1, 2, 3）、桜美林大学

◆参加 NPO

NPO 法人アークシップ、NPO 法人 WE 21 ジャパン、片倉うさぎ山公園管理運営委員会、NPO 法人かながわ外国人すまいサポートセンター、NPO 法人教育支援協会、NPO 法人グリーンママ、コトラボ合同会社、地域ビズ左近山（あんさんぶる）、NPO 法人さなぎ達、NPO 法人さくらザウルス、さわやか港南、NPO 法人障害者自立支援センター、鯛ヶ崎公園プレイパーク、NPO 法人地球市民 A C T かながわ、NPO 法人鶴見川流域ネットワーク、日本の竹ファンクラブ、NPO 法人びーのびーの、株式会社フェアスタート、NPO 法人横浜 NGO 連絡会、NPO 法人横浜コミュニティデザイン・ラボ、NPO 法人アクションポート横浜

○その他

- ・人材育成事業への助成事業・公益財団法人電通育英会を受託



【成果と次年度に向けて】

□日ごろ地域の活動や課題と接点をもちにくい学生に対してインターンシップの教育効果は大きい。

□若い人材不足に悩む団体にとって、若い世代と接点をもつことは、活動を活性化する機会ともなる。また若い世代をボランティアとしてリクルートするいい機会ともなっている。

□今年度初めて長期インターンシップを実施した。課題もあるが、参加学生の成長度合いは非常に高く、NP0での活動の実践力にもなり得る可能性が高いことがわかった。今後は多くのNP0で参加してもらえるような仕組みを作っていきたい。

□学生チームのアイデアで参加学生の活動体験をブログにアップしてもらったが、団体にも学生にも好評であった。

■1年を通じて、学生と団体の目標設定の充実と学生間、学生団体間の関係づくりへのサポートが必要だという課題が上がって来た。次年度は重点的に取り組みたい。

■今年度は助成金を獲得し、運営に余裕を持つことができたが、助成金がないと大学の費用負担が難しく、受け入れNP0の謝金、事務局経費の捻出が厳しい。予算の確保は引き続き大きな課題である。

■NP0スタディーツアー（神奈川県新しい公共支援事業「多様な主体による交流促進事業」）

神奈川県職員研修としてNP0の現場での活動を体験するツアーを実施した。

横浜会場：平成25年2月19日（火） 参加者5名

（受入先：NP0法人鯛が崎公園プレイパーク管理運営委員会）

港北区日吉本町の鯛ヶ崎公園プレイパークを訪問し、プレイパークや団体の活動概要について説明を受けた後、現場で体験活動を行った。

相模原会場：平成25年2月27日（水） 参加者11名

（受入先：NP0法人太陽の村・さがみはら市民活動サポートセンター）

さがみはら市民活動サポートセンターを訪問し、相模原のNP0活動の現状等について説明を受けた後、太陽の村の放課後児童クラブを訪問した。主に発達障がい児のケアについて説明を受け、現場で体験活動を行った。

鎌倉会場：平成25年3月6日（水） 参加者8名

（受入先：NP0法人山崎・谷戸の会）

受入先のNP0法人は、鎌倉中央公園の貴重な谷戸景観と、多彩な動植物を保全するため活動しており、活動の紹介の後、園内で里山の保全作業等を行った。



■若者による市民活動の広報支援プロジェクト（YOKOHAM ACTIONPLANNER）

若者が地域や NPO に関わるプログラムモデルとして、プロボノ活動を実施しました。若手社会人約 50 名が参加し、NPO の広報支援や若者を巻き込んだプログラムなどを実施した。

○キックオフイベント

2012 年 6 月 3 日（日）14：30-17：30 @日本丸訓練センター研修室

2012 年の YAP 活動の説明会を兼ねたキックオフイベントを開催。

若手社会人・学生等、約 30 名が参加。



○NPO への広報支援活動

支援先

- ・ NPO 法人 Junko Association：会員獲得に向けたサポート
- ・ NPO 法人教育支援協会：ホームページ作成、イベント広報
- ・ NPO 法人アクションポート横浜：リーフレット作成
- ・ NPO 法人かながわユースボランティアリングファクトリー：広報サポート



○交流活動

YAP メンバー同士の交流の機会としてイベントを実施。

- ・ フリーマーケットへの参加 9 月 9 日（日）@日産スタジアム
- ・ 地産地消バーベキュー 10 月 7 日（日）@都筑民家園
- ・ 戸塚のおもちゃ箱に参加 2 月 23 日（土）@品濃小学校



○横浜珍百景プロジェクト

若者目線で横浜の魅力を発掘していこうというプロジェクト。

5 月 13 日（日）@中華街・みなとみらい地区

7 月 22 日（日）@山下公園・横浜地区

11 月 17 日（土）@白楽・東神奈川・横浜地区



【成果と次年度に向けて】

□3 年目の活動となったが、若者 50 名となり、他の若者団体とも連携して自主的に活動を行うことができた。

□定期的に活動を展開し、活動の基盤を整えることができた。

■忙しい社会人がメンバーなので、チームマネジメントとアウトプットの質は引き続き検討が必要。

■大人のインターンシップ事業（横浜市市民活動支援センター自主事業）

普段活動に関わる機会の少ない社会人や若者を対象に、体験型プログラムを実施し、現場に参加しやすいようなフォローアップを行った。

第 1、2 回「横浜型地域貢献企業交流会—NP0 現場体験ツアー」

（NP0 法人横浜スタンダード推進協議会共催）

日時：9 月 12 日（水）13：00—17：00

内容：

現場体験） A コース：鶴見川にて清掃活動及び魚取り体験（流域連携よこはまと連携）

B コース：寿町にて街歩き及び体験活動（NP0 法人さなぎ達、コトラボ合同会社と連携）

第 3 回「プレイパークでやきいもタイム」

（鯛が崎公園プレイパークと共催）

NP0 法人ハンズオン埼玉で実施している「お父さんのやきいもたいむ」のスキームを教わって、鯛が崎公園プレイパークにて、お父さんや若者の活動参加のきっかけづくりとして実施

日時：11 月 24 日（土）11:00 ～ 17:00 会場：鯛が崎公園

参加者：約 60 名



第 4 回「フェアスタート卒業パーティ」

（NP0 法人フェアスタートサポートと共催）

養護学校に通っている高校生を対象に就職支援をしているフェアスタートサポートと連携して、高校生の就職を祝う卒業パーティを実施した。社会人から仕事をする際の心構えや経験談を話してもらうなど、社会人の参加者が参加しやすいようにサポートを行った。

日時：2 月 24 日（日）14:00-17:00 場所：横浜市中区社会福祉協議会

参加者：30 名

第 5 回「横浜 Flower プロジェクト」

（NP0 法人ユースボランティアリングファクトリーと共催）

ユースボランティアリングファクトリーが実施している横浜 Flower プロジェクトへ学生や若手社会人の参加のきっかけの場を作った。

日時：3 月 2 日（土）10:00 ～ 16:00 場所：横浜駅西口相鉄口前

参加者：25 名



■その他

・神奈川特命子ども地域アクター養成アクション協議体への参加（神奈川県新しい公共の場づくりのためのモデル事業）

■ 学生スタッフの活動

なまはるまき

「活動をしている学生」と、「何かしたいけれど何をすれば良いかわからない」「活動する中で悩んでいる事がある」という学生を対話させる事によって、活動に学生が積極的に参加できるようになる事を目的とした企画、なまはるまき（定例学生サロン）を開催した。月に1度開催し、そこで出会った学生が新たな活動に加わったり、活動改善を行う事につながった。今後は、新しい学生に参加してもらう事、より継続的に多くの学生に関わってもらう事に視点を置き、工夫したい。



インターンシップ

アクションポートの長期インターン生として、金子美穂さん（日本女子大学 4 年）、佐々木昂平さん（明治学院大学社会学部社会学科 3 年）の 2 名が参加。金子さんは、NP0 インターンシップ報告の冊子作成において、編集長を担当。編集チームの学生達のとりまとめ役として活躍した。佐々木さんは、横浜サンタプロジェクトの学生のリーダーとして多くの学生を集め、プロジェクトの成功に貢献した。

エコツアー

横浜市資源循環公社とアクションポートが連携して行った企画で、学生チームを主体に、環境問題の啓発ツアーを行った。“なまはるまき”の参加者であった学生がリーダーとして企画チームをまとめ、学生スタッフ以外の学生が主体的に活躍する場をつくることができた。ツアー終了後の、参加した学生達を含めた飲み会では、今後してみたい活動などの話で盛り上がった。ここで出会えた学生を今後もどんどん巻き込んでいきたい。

■事務所の移転とオープンパーティの開催

アクションポート横浜の事務所を2012年7月にこれまでの中区桜木町の「みなとみらい21クリーンセンター」から中区山下町の「上田ビル401」へと移転をした。

移転に伴い、会員やお世話になっている関係者の皆様をお招きしてオープンパーティを開催し、事務所のお披露目を行った。



■横浜市指定 NP0 法人への申請

横浜市指定 NP0 法人制度に申請し、指定 NP0 法人となった。